

年間学習計画と評価について

学 校 名	学 年	教 科
四日市市立内部中学校	2 学 年	国 語

1 学習のねらい等

※1年生3月に学習予定だった文法の学習は、2年生各学期の文法の学習時に実施する。

学習のねらい	○様々な国語作品や漢字・文法の学習を通して、国語への関心を高め、感性を豊かにし、ものの見方・考え方を深め、国語の基礎学力を身に付ける。 ○状況に応じて、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを聞く力を養う。(話す・聞く力) ○目的に応じて筋道を立てて文章を書いたり、まとめたりする力を養う。(書く力) ○様々な題材を通して、その作品の意図する内容を的確に読み取り、把握する力を養う。(読む力) ○言葉や文法についての学習を通して、言語知識を身につける。(言語についての知識・理解・技能) ○漢字を正確に読み書きできる力を養う。(言語についての知識・理解・技能)
使用教材	教科書：国語2（光村図書），新しい書写一・二・三年用（東京書籍） 補助教材：新・国語の学習2（正進社），学習漢字ノート2（浜島書店），よくわかる中学国文法（吉野教育図書），国語便覧(浜島書店) その他：国語辞典，習字セット

2 評価の観点および方法

評 価 の 観 点		評 価 の 方 法
①関心・意欲 態度	国語に関心をもち、意欲的な態度で学習に取り組むことができる。	授業中の発言・発表の様子，授業中の行動の様子，提出物の提出状況，課題へのノートのまとめ方
②話す・ 聞く力	自分の考えを深め，目的や場面に応じて，話したり，聞き取ったりすることができる。	説明・発表の様子，スピーチ・討論の内容，聞き取りテスト，聞く態度，実力テスト
③書く力	目的に応じて様々な文章を，形式を整えて書くことができる。自分の感性や考えを大切にしながら表現方法を工夫し，読む人を意識しながら書くことができる。	課題レポート，課題プリント，感想文・作文，定期テスト，実力テスト
④読む力	目的に応じて様々な文章を的確に読み取り，自分の意見をもつことができる。	授業中の課題，朗読テスト，定期テスト 実力テスト
⑤言語についての知識・理解・技能	文法や漢字等の知識を身につけることができる。書写では楷書や行書を正しく整えて，速く書くことができる。	音読，小テスト（漢字・文法），書写作品，暗唱テスト，定期テスト，実力テスト

3 学習計画

	各単元と主な学習内容	観点別評価の具体例
一 学 期	「見えないだけ」 ○言葉の用い方や表現の特徴に注意し、自分なりの感想をもちながら読む。 「アイスプラネット」 ○登場人物の考え方や生き方などについて、自分の経験などに関連づけて考えをもつ。 「枕草子」 ○原文を声に出して読み、言葉の響きや調子を楽しみながら音読する。 ○自分の感じる四季の趣についてふり返る。 「熟語の構成」 ○熟語の構成について考え読み分けや使い分けを学習する。 活用しない自立語（※1年教科書「単語の分類」を含む） ○名詞、副詞、連体詞、接続詞、感動詞の特色と役割を知る。 「生物が記録する科学」 ○文章の構成や、事実と考えの示し方に着目して、説明の仕方の特徴を捉える。 「メディアと上手に付き合うために」 ○さまざまなメディアの特徴を知り、適切な情報を選んで活用することを学習する。 「類義語・対義語・多義語」 ○類義語・対義語・多義語の意味や用法について学習する。 「新しい短歌のために」 ○短歌についての基本的な知識を得る。 ○作品の情景を想像し、作者の伝えたいことを感じとる。 ○自作の短歌を書く。 「短歌を味わう」 「言葉の力」 ○言葉についての筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。 読書案内 ○作品を読み、読書の世界を広げる。 ○自分の読書生活を振り返り、進んで読書に取り組む。 ○図書館司書によるブックトークを聴く。 「硬筆・行書」 ○正しい字形や筆順で字を書く。	○感じたことが伝わるように朗読する。 ○登場人物の言動に着目して、人物の関係や心情の変化を捉える。 ○音読を通して、古文特有のリズム感や優れた表現を味わう。 ○季節感を読み味わい、自分が感じる四季の季節感と比べる。 ○漢語の造語力を知る。熟語の構成の種類を見分ける力を身につけ、漢字への関心を高める。 ○用言以外の自立語について理解する。 ○文章の構成や、事実と考えの示し方に着目して、説明されている内容を理解する。 ○文章に表れたものの見方・考え方について理解する。 ○類義語・対義語・多義語の意味を理解し、適切に使い分ける。 ○伝統的な言語文化の一つである短歌に触れ、感性を豊かにする。 ○自分の感動の中心をとらえ、短歌として表現する。 ○短歌について理解し、表現の深さを自由に読み味わう。 ○正しい言葉に対する筆者の考え方を読み取り、自分なりの考えをもつ。 ○自分の読書生活を振り返り、読書する本の幅を広げたり、読書生活を見直したりする。 ○自分の字を客観的に見つめ、より丁寧な字を書くように心がける。

二 学 期	「盆土産」 ○人物の描写などに注意して、人柄や心情を読み取る。 「字のないはがき」 ○登場人物のそれぞれの人柄や思いを通して家族の心のふれ合いについて考える。 ○「私」の語る内容から筆者の父親への思いについて考える。 「モアイは語る——地球の未来」 ○根拠となる事実を確かめながら、文章の構成や表現の仕方をとらえる。 「敬語」 ○日本語の敬語表現の特徴について理解を深め、その使い方を身につけ、相手や目的に応じて言葉を工夫することの大切さに気づく。 「同じ訓・音を持つ言葉」 ○同訓異義の漢字と同音異義語について学習する。 「気持ちを込めて書こう」 ○伝えたい気持ちや用件を明確にし、効果的に伝わるように表現や構成を工夫して手紙を書く。 「扇の的一平家物語」 ○歴史的仮名遣い、助詞の省略、対句、係り結びなどに注意して音読する。 ○情景を想像して読み、登場人物の心情について考える。 「仁和寺にある法師—『徒然草』から」 ○登場人物の言動に対する作者の思いについて考える。 「漢詩の風景」 ○漢詩特有の調子に慣れ、読み味わう ○漢詩に描かれている情景を想像し、作者の心情を考える。 「用言の活用」 (※1年教科書「品詞」「体言と用言」を含む) ○活用する自立語について学習する。 「毛筆・行書」 ○正しい字形や筆順で字を書く。	○登場人物の言動や心情を表す表現から、心情の変化を捉える。 ○登場人物の人柄や心情について読み取り、自分の感想や考えをまとめる。 ○家族の描写から心情をとらえ、筆者の父への思いを読み取る。 ○事実と意見を読み分け、筆者が何を主張しているかを読み取る。 ○事実と根拠を明確に読み取り、文章構成や表現の工夫を理解する。 ○丁寧語・尊敬語・謙譲語の働きを理解し、相手や状況に応じて適切に使う。 ○漢字の訓や音に関心を持ち、漢字について理解を深めようとしている。 ○手紙の書き方を理解する。 ○形式を守りながら、気持ちを効果的に伝えようとする。 ○和漢混交文に特有な表現を理解して音読する。 ○場面の状況を読み取り、登場人物の置かれた状況や心情を理解し、自分なりの感想をもつ。 ○登場人物の行動や気持ちを読み取り、作者の考えを理解する。 ○漢詩の独特のリズムに慣れ親しむ。 ○漢詩の基礎知識を理解する。 ○漢詩の情景や作者の心情を読み取る。 ○用言の活用の仕方と種類について理解する。 ○自分の字を客観的に見つめ、より丁寧な字を書くように心がける。
----------------------	--	---

三 学 期	「君は『最後の晚餐』を知っているか」 ○評論を読んで、使われている言葉や表現の工夫などに注意しながら、筆者のものの見方や考え方を読み取る。	○筆者の着眼の仕方やその順序など、論理の展開の仕方に着目している。 ○示されている根拠、表現の仕方や工夫に着目している。
	「パネルディスカッション」 ○話し合って考えを広げる。 ○立場と根拠を明確にした説得力のある表現を学ぶ。	○他の人の意見を聞くことで、新しいものの見方に気づき、また考え方の多様性に気づく。
	「落葉松」 ○言葉の用い方や表現の特徴に注意し、自分なりの感想をもちながら読む。	○表現の仕方に着目しながら朗読する。
	「走れメロス」 ○さまざまな視点から作品を豊かに読み味わうことで、人間についての理解を深める。	○作品を読み、登場人物の行動や考え方について自分の考えをもつ。 ○描写や会話に着目しながら、登場人物の人物像の変化を読み味わう。
	「科学はあなたの中にある」 ○説明的文章を読み、筆者の主張を正確に読み取る。	○文章に述べられた事例と筆者の主張との関係を考えて、内容を読み取る。
	「付属語」 ○付属語の特色と、日本語において果たす役割について学ぶ。	○助詞の4種類の分類とその役割、助動詞の役割とその活用について理解する。
	「方言と共通語」 ○方言と共通語の役割やそれぞれの良さを再認識し、言葉を大切にすることは、その背景にある文化や伝統を尊重することにつながることを理解する。 「送り仮名」 ○送り仮名の必要性について学習する。	○方言と共通語について、それぞれの特徴や役割を理解し、どちらも大切にしながら場面に応じた使い分けをしようとする。 ○送り仮名の原則を知り、通則に従って表記する。

4 学習方法についてのアドバイス

学 習 方 法	学 校	○チャイムが鳴ったら、漢字小プリントを係の生徒と協力して始めよう。 ○学習課題を的確に把握し、前向きに課題に取り組もう。 ○授業中に板書されたことや気づいたことなどをノートに工夫してまとめよう。 ○わかったことをノートにメモしたり、積極的に挙手して発表したりしよう。 ○先生や友達の話や発表をしっかりと聞き、自分の考えと比較し、自分なりの考えをもとう。 ○わからない語句に出会ったら、辞書で調べる習慣をつけよう。 ○興味のある作品や作者については資料集で調べたり、読書につないでいったりしよう。
	家 庭	○ノートまとめや「国語の学習」・「漢字の学習」などは各自で自主的に進めよう。 ○授業のあった日は必ず漢字小プリントを復習・予習し、正確に漢字を覚えよう。 ○宿題は必ず家でやってこよう。 ○わからなかったり、気になったりした言葉は、どんどん辞書を引いて確かめよう。 ○本をたくさん読み、視野を広げ、心を豊かにしよう。